明治三十八年三月七日　朝鮮日報　(日刊)　(火曜日)　第三十九號　(一)

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
明治三十八年
光武九年
韓國釜山港大廳町二十七番地
發行所　朝鮮日報社

定價　壹ヶ月金[illegible]錢

發行兼編輯人　[illegible]
印刷人　[illegible]

寄書

●宗教雜談　[illegible]岳

◆旅漢會に於ける觀　頃日韓語漢會の人に對し大氣談を吐いて曰く、今度の戰爭に於ても禪や法華の信者で宗教上から觀念して死際の立派な者は實に千人中の一人だが之に反して眞宗の南無阿彌陀佛に縋り固つた者に到ると其の覺悟は實に見事な者だ殊に東北遠の兵者が何をも皆所謂死を見ると歸するが如く、決して學校教育の力でも無ければ軍隊教育の力でも無く、彼等は皆先天的に死すれば極樂淨土に行けるもの、此世に在つて苦しむより死して極樂淨土に行くに如かずと云ふ觀念があるから死、從軍僧からにても唯だ[illegible]口御國の爲に盡さねばならぬ、御國の爲に死するのは佛陀の御念にも叶つて居ると言へば、彼等は皆喜んで死ぬるが、禪や法華では決してさう云ふ譯には往かぬ、即ち此點から言へば同じ佛教中にでも最も下等の宗教たる眞宗が一般效能がある、東西兩本願寺の坊さん等もまだ〳〵して無用の長物とは言へぬ、殊に此際軍人の遺族に對して慰安を與るのは宗教家を除いて外には無い、宗教家の任務は斯の如く大にして隨て費用を要する事又隨分多大なるに係らず、政府は國債募集の妨害に爲るからとて、各地方官に訓令して各寺院に於て志納金を募集するを制止しつゝあるなど云ふ時のあるは以ての外だ、殊に本派本願寺が此際の募集に應せしが如き、宗教の何物たるを解せざる者だ、ソン+金があれば更に大に宗教家の任務を盡すが善い、大谷派本願寺が此際十分の力を盡す事の出來ぬのは氣の毒だが仕方が無い、併し支那朝鮮等に於ける同派の勢力は實に驚く可き者だ同本山はまだ〳〵決して滅亡の時期ではない、内地では一時多少衰頽するかも知れぬが、支那や朝鮮にては大に振ふの余地が立る、余輩と雖ども決して今日の僧侶が悉く立派な者なりと言はぬが日本の佛教なる者には前途尚ほ多大の望を嘱して居る

◆宗教家の殖産事業　我友遠舟生曰く、我國の勢力の韓國に發展したる今日徒に宗教家が居留地而已に數居して布教葬祭已を天職と心得るのは誠に惜む可き事である、今日凡そ八道の寺院七百余ヶ寺を末寺とするも住職となるも是等の計畫に就て[illegible]其僧侶韓人[illegible]教育に實に善い時事である、遂が坊さんの[illegible]に依ると、信徒はんげず金はなしと監ふが今日の世の中人を相手にせんげれば仕事が出來ぬ[illegible]まつたも爲である、素より食はず[illegible]事業には金が入るが、余輩の[illegible]に宗教家なるものはドシ〳〵入込で殖産事業を興したら好からうと思ふ、其の收益を以て教育事業もやるべしだ、彼の日本產物の一として名聲嘖々たる京都綿工は元祿の昔し全地の光明院の[illegible]入和尚が布教費を得、一方土地の繁榮を來さん爲め自ら工場主となりて始めたのだ、本長門產物の一なる夏蜜柑は天保の昔し法洲和尚が全國[illegible]得て、彼の目的で播殖を計りたの[illegible]、其の濟世利民の鴻益は實に偉大である、世の宗教家なるもの世の大勢を察して世界の云何に關せず法の爲に奮勵を望むのである云々

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（續）

第廿七、交通及通信

△船舶　明治三十六年中釜山港に出入したる船舶數は入港二千〇拾八隻五十[illegible]萬四千百六十一噸出港貳千〇十隻五拾七萬二千三百八拾七噸にして之れを船種、船舶國籍別に區別し何没前卅五年と比較すれば左の如し

入港

船籍別	明治卅六年 隻數	噸數	明治卅五年 隻數	噸數
(汽船)				
日本	[illegible]	[illegible]	六六五	三三六、八五八
英國	三	八、六六七	一	四、八〇〇
[illegible]	四	一〇、五五六	二	三、五五五
[illegible]	一四	二一、二三〇	三	二、七九五
伊國	一	一、九〇	一	二二、六三五
韓國	一五	一九、九〇六	七七	[illegible]
小計	一、六四五	四六九、五五八	七八六	三五七、三六一
(西洋形帆船)				
日本	二八八	三、八二三	三二	一九、八〇〇
佛國	一	一、七六六	一	一、五四四
韓國	七	二一五	二	三三六
小計	三九六	四、七六四	三四三	二二、八八〇
(日本形帆船)				
日本	七三二	九、七四〇	八三三	八、八六七
(韓國形帆船)				
韓國	一五	一三三	一	二
小計	三七七	九、八三九	八三三	八、八六九
合計	二、〇二八	四八四、一六一	一、七四三	四〇〇、二一二

出港

船籍別	明治卅六年 隻數	噸數	明治卅五年 隻數	噸數
(汽船)				
日本	一〇四八	四六五、六八四	六八三	三三九、四一六
英國	三	八、六六七	一	四、八〇〇
[illegible]	四	一〇、五五六	一	三
[illegible]	一四	二一、二三〇	三	三、五五五
伊國			一	二、七九三
韓國	二六	二〇、三五〇	七五	四三、〇九四
小計	八〇九	五三六、〇一七	七六二	三六八、六六一
(西洋形帆船)				
日本	一六六	一九、七五四	三八	一九、七五四
佛國	一	一、七七六		
韓國	一八	三二五	三	三三六
小計	一八五	二一、八〇〇	四三	二〇、一二〇
(日本形帆船)				
日本	七三七	九、四八六	八三〇	八、六五三
(韓國形帆船)				
韓國	三	一二	二	二
小計	七四〇	九、四九八	八三二	八、六五五
合計	二、〇一〇	五六七、三一五	一、六三七	三九七、四三六
出入計	四、〇三八	一、一〇五、四七六	三、三八〇	七九七、六四八

即ち昨三十五年は前年に比し隻數に於て五百四十三隻噸數二拾八萬二千七百二十七噸を增加せり以上は單に三拾五、三拾六兩年間の比較に過ぎざれども之を逐年增進せるあとは左の釜山海關噸數の年表に徵するも亦明晰なり

年次	噸數
明治二十七年	四〇四、六一
同　二十八年	六一四、七九八
同　二十九年	八〇一、一二五
同　三十年	八五八、六二五
同　三十一年	七二五、四五〇
同　三十二年	八五八、六二五
同　三十三年	一、〇七三、八二五
同　三十四年	九八六、五〇〇
同　三十五年	一、六八〇、五七五
同　三十六年	一、九三六、〇一五〇

而して斯る增加をなす所以を查するに年次韓國貿易の增進するに伴れ漸次日本郵船大阪商船の韓國航路の擴張せるあり殊に清韓浦鹽航路は勿論大阪商船の韓國航路ある變動を見前は其他汽船の臨時出入を增加したると當國沿岸航路の頻繁は赴きたるによるも今左に當港に出入する船舶の重なる航路を列舉せば

一日本郵船會社命令航路

神戶、釜山、北清線
一、神戶を起點とし門司、長崎、釜山、仁川、芝罘、太沽に寄港の上牛莊に至る
一、神戶を起點とし門司、長崎、釜山、仁川、ダルニー、旅順口、太沽へ寄港の上芝罘に至る

(日露時局問題發生以降寄港地を變更す)

神戶、浦鹽線
一、神戶を起點とし門司、長崎、釜山、元山、城津へ寄港の上浦鹽に至る
（日露戰爭の爲め休航す）

神戶、仁川臨時線
一、神戶より門司に寄港し釜山仁川に至る航路

二大阪商船會社命令航路

大阪、鎮南線
一、大阪、鎮南浦の兩地を發し往復とも神戶、馬關、釜山、木浦、仁川に寄港す
但冬季鎮南浦結氷中は仁川を終點とす

大阪、群山線
一、大阪、群山の兩地を發し往復共神戶、門司（又は下の關）、釜山、馬山、木浦に寄港す

大阪、城津線
一、大阪、城津の兩地を發し往復共神戶、門司又は下の關、釜山、元山に寄港まを[illegible]しが時局決裂の爲め航海危險の虞あるにより當分の內休航す

戰報一束

●沙河大砲戰　最も信ずべき情報に據れば我軍は二日以來沙河前線の敵軍に向つて大砲撃を開始したり

●彼我の耐寒力　我軍隊の寒氣に堪ふるは過日の黑溝臺戰及び今回の沙河攻擊に於て實驗せられたるが此二回の戰鬪中は吹雪甚しく寒威凛烈を極めたるに拘らず黑溝臺に於ては凍傷者百餘名中入院せしめしは僅に六名に過ぎず此等も一二週間にして全癒したり又今回の沙河攻擊に在ては凍傷者殆ど一名も入院したるものなし昨今は皆全癒したり之に反し敵軍は前回の戰鬪に於て三千以上の凍傷者を出したるもの〻如く現に沙河堡附近に委棄しありし敵屍中其過半は凍傷し居るを認知し又俘虜中にも多數の凍傷者あるを發見す

●日露海軍力の比較　倫敦タイムスの軍事通信員は論じて曰く波羅的艦隊の出發に際し露國人は責任を以て其勢力に關する數字を吾人に示せり

	波羅的艦隊	日本艦隊
噸數	九五、〇〇〇	二六、〇〇〇
砲	七〇一	九四一
重砲	三六	六三
艦員	八、五〇〇	一四、四〇〇

●兩共和國の回答　亞爾然丁國が軍艦を露國に賣渡したりとの說は開戰以來已に二三回傳へられたりその虛なるが同國政府は其都度之れを否認せり然るに昨年十一月我政府は稍や信ずべき筋より亞爾然丁智利兩共和國が第三國の手を經て敗後の軍艦を露國に賣渡したりとの報に接したるより直ちに公然の手續を以て兩政府に對し事の事實を質問し且つ其が事實なるに於ては其中立違反に屬する事を斷念せられんことを希望すとの旨を照會したりしに亞爾丁國駐剳同國公使をして我辨理代理公使に對し亞爾然丁國政府に於ては其所屬の艦艇を現下の戰爭中何れの國又は一個人にも賣渡したることなく又賣渡す事なき旨公文を以て確答せしめ智利國政府も亦其駐英公使をして我公使に對し同國に於て其所有軍艦の一隻たりとも交戰國に賣渡したる事なく又賣渡す事なかるべし又交戰國以外と雖も中立に關し完全の保證を提供し能はざる國に對しては之に軍艦を賣渡さゞる旨公然答辨せしめたりと云ふ

●印度人の國債應募申込　孟買に於ける印度人某は今回の國債募集に就て是非共之れに應せんあとを切望し縱令價格以上にても厭はざれば三萬圓丈け應募させしとの事を三菱會社の銀行部に申出で其申込手續を依賴したりと

能

骨十句（其二）　黑潮

骨折つて鷹にとられて春の山
破魔弓やすぐる旅の羽骨
骨堂に桑桶吹き出て自然生へ
川骨やいさゝ小川の春の水
無定河の骨に春雨け
骨の無き海鼠を喰る擬鯛
俠骨の花見衣裝や涙手やかに
野良猫の骨ふさはし魚[illegible]
佛骨や燒王殿の春の雲
曝されし骨やうひぢて春の水

綿十句　下關　善哉

綿に[illegible]の掛けや綿帽子
綿の花や夕を引れ行綿帽子
綿服の俗臘田たり梅の門
吹出す綿よれ〳〵や春の風
大切に取つて除けたり雛の綿
畑打の剌拔く鋏や木綿針
春風の吹く〳〵や綿屑鉋屑
綿と打つ弓の音あり桃の宿
佐保姬の衣綿かも春の雲
風颯と茅花の綿の水に飛ぶ

漢詩

過玄海　方外

海氣蒙々礁前屬　風搖煙波灘任舟
玄界天涯一斗群　火輪輾玉金鯨鞲
　　同人
投錨對州　
紺入對州人倚杜　滄洲西海雁一聲
風波漸靜爬山眼　三更漁火小於星
　　同人
上陸釜山
闔祝漢曆新年回　白衣韓人五裸裩
壯遊今日到釜山　山圍三面港樓開

講談

仇討　武勇の譽　本社　井[illegible]竹林講演　員[illegible]速記

○「御手元は御面倒さまながら」パタ〳〵と八九人夫へ出て來ましたつくナどいふうちにそばに參る兮否面倒〳〵キャラ〳〵と引ぬいて重太郎をめがけて切り込んでくる『ヤ……汝等はヒヘギ追剝をいたす奴ばら推か怜くい奴と腰刀を引ぬきました見るく中に三四人切倒す其の中にワッと聲を上げて八方へいたして切てかゝる三拾八人ザア當太郎最早運命の盡きたる處ろだ先度の意根思ひしれ森玉平藏だ成尾權五郎成瀨河之丞と名乘りかけて切てかゝる僞はかねてのあと意恨に思ひ重太郎を討取んの錄でも起取あるらしきをるらし虫めら重太郎相手は嫌はず何百人でも寥れと縱横無盡に働らきまし、た何んで堪らんバタ〳〵其處に切り仆され叶はじと逃出のを重太郎が追つめては切て捨る今壹人劍を杖によろめきながら逃げやうとする處を標髮をムッド押へて重『マテ〳〵』○『與見氏同うぞ命ばかりは御助けを願ひます雲間に洩れる月影にザツト眺めて重太郎重『森玉平藏だな平如何にも不愍でございます何うぞ命は御助けを願ひます』重『望み通り命は助けて遣る

汝輩が徒黨をなして此の重太郎を意恨に銜らしは此の土手に於て殺さんといたしたるあとを出る所に出て速やかに貴樣白狀をいたせさうすれば汝の一命を助けて遣る』平『イエモー私くしどもが全たく惡ひのでございません權五郎どのが工風をいたして斯うい ふことをいたしました何處へでも出て逃ます命は御助け下さいます』やがて重太郎が森玉の標髮を引つかんで我が家に立歸りまして重左衛門に話しをいたしました事故大ひに驚ろひて夜中ではございますが重左衛門より目附の川崎十三郎の處に參つて右の次第をくわしく述べましたコ、デ川崎は相役松村五十右衛門を呼で重左衛門が重太郎につれて訴たへ出た始末をはなし一とまず取調べました森玉平藏も呼び出されしらべは受ましたがありし次第をかやう〳〵と物語る其の中に夜明になりました大森堤へ檢使が下りましたが三拾七名は物の美事に切つてあります、デ重太郎の口書と森玉の申したのと符合はいたして居るし早速君公へ申し上げました宍戸安藝守どの大きに御立腹あらばし早速老臣成尾どのへ顧つて悴どもは勘當をいたしたのでございますから居所は知りませんが實に面目次第もない始末悴どもの不所存恐れ入りました然らば重太郎に切られたのは自業自得別段重太郎に對し上から御咎めもない勘當をしたものを殺したれでございますから剩つさへ大層御賞美に預かりまして此處で又三百貫の御加增を下さいまして部屋住ではございますけれども重太郎は二百五拾貫を頂戴いたし人皆な羨やまざるものとてもございません成尾飛彈は奸智に長けて居りますから權五郎相果ましたので家督相續をするものもございません實に殺されたのは自分が求めた災わひ實すべく悴どもむべきは重太郎の腕前養子に申し受けて成尾の家名相續いたさせ彼れ〳〵忠勤を勵ましたらであると上へ願つた之は成尾が養子に貰つておいて何んとかして殺してしまい悴れ權五郎の恨を晴さうの心でございました藝州守どのは即ぶんじとない早速重左衛門に御沙汰になると誠とに成尾樣の思し召千萬忝じけなふございますが重太郎儀は異の家督相續をいたすやう取極めありますに依て誠とに恐れ入りますが御斷り申しますモー仕方がないたさへ十日でも先に養子にくれろといふものがあり親も承知當人も承知ソコデ約束が出來て居れば今更變替は出來ません成尾飛彈儀は殿より右の次第を仰せきけられましたみと故殘念に心得ましたが止むを得ません實に重太郎の評判といふものは廣大でございました

廣告

朝鮮日報

論説

徒弟養成所の必要

對露戰勝の勤機は邦人に授くるに韓滿の經營は勿論世界的商業の舞臺に活躍すべき大責任を以てせり世界の强國を以て而も新戰勝國民を以て誇る四千七百萬の同胞に此の意氣理想ありや

聞説北米合衆國に於ては學校　なる者を組織し二百數拾名の生徒と二十余名の教官を乘せしめ四箇年を期して世界を一周すると共に修業課程を終へしむる方法を以て已に大西洋を航し英國に到りテームス河を…大に英國官民の歡迎を受け非常の喝采を博したり而して同…の東洋に航して我國に來るは近く明年の夏期中なりと其の擧や學理と實際とを接合せしむる目や深くして且つ大なり豈驚みる所なかる可んや

釜山は一葦水の海外に在て同胞の居留する年久しく戸口亦繁じ且つ滿韓の咽喉として其の地盤上に於ける關係は將來鷄林八道と滿州三省を經營すべき同胞の商業養成所となり換語せば地なり凡ての規摸と機關とに於て漸く備はる所あるべからず然も事實は本町北濱の小區域を除くの外は對外貿易商として見る可き者なく二万の同胞は徒らに相食ひの醜を演ずるに過ぎず蓋し居留民の多くは己に之を知るあらん知て而して匡濟の道を講ぜざれば知らざると何ぞ擇ばん是れ予の徒弟養成所の創設を望むに切なる所以にして其の一着手として徒弟懇親會なる者を創立し經濟學上の智識を啓發す可く實めて夜學會を組織し大に彼等の將來に資するで共に學理と實際とを接合するの端緒を開く所以なり

徒弟懇親會なる者の組織に就ては不備不完全なるを以て○○○の商業學校以上の効力あるは内外共に之を認めたり釜山居留民たる者宜しく大に考慮すべし其の手段方法に就ては更に設く所あるを待て（方外）

京城通信（三月三日午后八時）

▲結黨暴行　宗觀察府の内部に送りし電報によれば租税の事に關して聚黨結社し其の徒數千人家を…知れず…税を斂めずして家屋を毀壞する等の暴行をなし騷擾實よ甚だし巡檢を出して之れを鎭定せんとれども衆寡敵し難し故って鎭衛隊に電訓をて之を鎭壓せんことを請ふと

▲内部より答電す　全羅北道觀察使の電報に云々に關し黨徒暴行を行ふは民の願に伴はざるを以ての故にして宜しく兵を派して鎭定するが如き事を止め良民の願ひに副ひ諭解散せしむべしと内部より全羅北道觀察使に同電を發れり

▲察使辭職　慶尚南道　察使成岐運は辭職を奉りたり

▲任命　版籍局長李容世は内務警務局長となり内部参書官洪濬璿は始興郡守となる

▲内部より各道に訓令す　晩近各地方官吏等貪虐誅求を厭ず民の爲めに其痛困を害むるや痛恨に堪へざる盛也之が爲め政令あれども行はれず國務の爲めに擧がらず民業に安まる能はず其の結果地方官と人民との間は恰も仇視虐待を之れ事とするが如し學黨東の餘黨は益々激噴して起るに至る故に屢々之を訓令したとも尙之を用ひず痛歎に堪へざる也各郡に通知して各會民を曉諭し業に安せしむべし會民には頭領に訓令して辦理すべし

▲議政府會と流會　二日午後二時會議を開き趙議政は出席し增加案ご政府主事三人を家人より叙任することを分布せんと云ふたるに参贊閔商鎬之に反對したれば議政大に怒り辭疏を上疏する等のことありて流會したりと云ふ

▲侍從武官一行の謁見　岡澤侍從武官及木村東宮武官の二行は本日午後四時より一個の資格を以て韓帝に謁見し同時に右一行に對し韓帝より勳章を授けらる、やに聞き及べり

▲侍從武官の開城行　岡澤侍從武官及び東宮武官の一行は京義工事の模様を視察の爲め明日一番列車にて開城に赴かるゝ由何明日韓廷の饗應

▲優渥なる勅旨　岡澤侍從　官及び村木東宮　官より林公使に對し優渥なる陛下の聊旨を傳へ鄭重なる御下賜品等ありしと云ふ

●佛公使の警告

全羅北道觀察使李容植氏は佛國人クール氏に對して民事訴訟を提起したるものあり之れを調停する名を以てクルサー氏を拘引したり右の行爲は條約を無視したるものにして頗る穩和を缺くものと認むるを以て自今遠般の行動無き樣注意ありたしと云々と佛國公使より外部に向つて嚴然たる警告を發したりと

●義勇艦隊設計

帝國海事協會にては共益義勇艦隊造船委員會に於て種々調査したる結果決定したる艦艇設計法に據れば約千噸速力は拾一海里以上の船舶數隻を建造すると決し一隻の豫算額四百万圓内外の豫定にして平時に於ては商船に用ひ遠洋航路に使用し非常有事の際は假裝して遠洋艦の任務に服せしむべき筈なれば義勇艦の一艦一拾一海里以上の速力を要せざるべからざるを以て艦其の他に於て太に普通商船と異なるのみならず平時に於ても艦船として使用し得る機能を有し貨客積載量の餘地を有せざるべからざれば計畫せし七千噸内外の艦船にては平時の需要を困難なる事情の爲め前記一万二千噸以外の船舶を建造する事に決したる由にて本年五六月頃迄に一部たりとも義金の募集を努め約一萬二千噸速力二拾一海里以上の既製船一艘を購入する筈にて婦人部に於ても一大活動の上先づ發艇を新製若しくは購入し婦人に因める命名を爲す由なれば我海軍艦隊に一新勢力を添ふる者と云ふべし尙開戰以來我海軍に於て捕拿したる敵の義勇艦隊艦艇の擄方を出願し同艦隊に編入すべしと報ずる者あるも當事者は右は我艦隊に新勢力を增すものにあらざれば製艦事業は一時も捨置くべからざる急務なり

●義勇艦隊の盛況

義金募集は引續き好都合に進行しつゝある由廣島縣下の如きは五百圓以上三千圓以下の醵金者五百餘名に達すべき見込にて既に同艦隊本部への醵金申込高三拾九萬餘圓現金到着額二拾四万餘圓に上れり又東京市の如きも今日の狀況よりすれば少なくとも廣島に三倍すべく其他の各縣を平均二百人とし其醵金額千圓宛と假定すれば此大口の義金のみにても無慮千百二十萬圓の巨額に達すべく實に豫想外の好況を呈し居れりと云ふ

●昨年の米作實收高（農商務省發表）

昨三十七年の米作實收高は五千百四拾萬千九百九十七石にして之を前年に比すれば四百九十二万八千六百九十九石即ち一割六厘の增收を示し平年に比すれば九百十萬五千八十一石即ち二割一分五厘增收を來せり斯く未曾有の豐收なりし譯は昨年以來各地概ね氣候温順にして稻の生育佳良なりしは以て多少風水害を被りたる地方ありしにも拘はらず一般の成熟好況を呈し加之ならず害蟲の驅除豫防に注意厚かりしと耕作上に改良を施したるなどに因る

米作累年比較

明治二十八年	三九、九六〇、七九八石
同二十九年	三六、二四〇、三五一
同三十年	三三、〇三九、二九三
同卅一年	四七、三八七、六六六
同卅二年	三九、六九八、二五八
同卅三年	四一、四六六、四二二
同卅四年	四六、九一四、三三四
同三十五年	三六、九三二、二六六
同卅六年	四六、四七三、二九八
同卅七年	五一、四〇一、九九七
平年	四二、二九六、九三六

平年は明治三十七年より七ヶ年前に遡り其内最豐年（三十一年）最少（三十年）の二ヶ年を除き殘り五ヶ年を平均したるものなり

●侍從武官長韓皇謁見の模様

岡澤侍從武官長の一行が去三日參内謁見當時の模様を聞くに同日武官長の一行は林公使の案内にて慶運宮に參進し午後四時陛見仰せ付けられ[illegible]千里[illegible]して行路恙なく朕が都城に到達したるは朕の最も欣喜に堪へざる所なりと仰せ出され次いで滿州與交戰の狀態に就き陛下は深く御尋ねあり官長は一々之れを奉答したるに陛下は深く日本軍の勇を激賞せられ尙ほ二三陛下の御問ありて後退出したり此日岡澤大將の一行は色鮮然たる正服を着け高等勳章を佩用し儀堂々登闕したれば道路目を欹だて仰ぎ見ざるはなかりしといふ

●侍從武官長と東宮武官長着釜

岡澤侍從武官長は滿州に於ける我軍隊の勞苦を慰問せられて歸路に就かれたる岡澤侍從武官長村木東宮武官長一行の韓國通過に就ては屢々記する處ありたるが同一行は愈一昨日を以て京城出發京釜鐵道に依りて歸京の途に上れり　韓朝大邱發一番列車にて午後零時四分を以て草梁驛に到着せられたり同驛に出迎たる人々は木下京城兵　司令官竹本釜山守備隊長木島同憲兵隊長及有吉釜山領事石塚居留民長在釜山各宗寺院僧侶電信局長新聞記者等五六十名にして釜山公立小學校の生徒は訓導に引率せられ構内構場の兩側に整列し釜　及草梁の居留民は各戸國旗を揭揚し所　官長を迎ふの上に於て遺憾なく設備されたり斯くてを列車の着驛するやプラットホーム出迎へたる前記の人々は兩官長の搭乘せられたる列車の最後なる一等車（同鐵道）には未だ一等車の設けなし昇降段近く進みて兩　官長を迎へたるに兩武官長は一々名刺を受けて挨拶に及ばれたり岡澤侍從　官　風采は驅幹偉大にして嚴なる相貌の下に蓄へられたる鼻下髯は頭髮と共に白ろく僅に六旬以上の年配と見受けられたり村木東宮武官長は未だ春秋に富み余り逞しき體格に見受けざるも快活なる容貌にして體に明晰なる頭腦を有せらるゝは一見推知する事を得可し兩武官　其十數名の隨行者と共に防寒外套を着せられ嚴て領事館より廻はされたる人力車に乘り有吉領事館に招かれたるが嚴て兩　官長の搭乘すべき外部に於て御用船の…泊して待受くるあれば多分當港には宿泊せらるゝ事なしと云ふ

●岡澤大將の晩餐　閑項岡澤侍從武官長村木東宮　官長は領事館を出て、當地守備隊に臨まれ慰問せらるゝ處ありし大池旅館に休憩せられたるが乘船は本日午後八時四拾分なりと

●侍從長　石原民長　領事館に於ける晩餐の岡澤侍從　長一行には石原民長を饗あられ以前石原氏が衆議院議員在職中猿天拜謁を仰せ付けられ宮中出頭の際丁度　官長には勅令を帶びて設問の任に當られたれば記憶に存せられ當時を回想歎談せられたりといふ

●領事館の晩餐　昨日領事館に於ける大將一行の晩餐には岡澤侍從　官長村木東宮官長外副官二名石有吉領事石原民長鈴木

●晋州に於ける一進會員

慶尚南道晋州府に於ける一進會員の勢力は非常なる者にして現に城内に於ける一進會員は六百名城外四百名に達し尙續々加盟者あるを以て同府觀察使は百方妨害を試み百名許の無賴漢を語合ひ尙嘯察しつゝあり漸く相對して頗る不穩の模樣あるのみならず一進會は來る二十日を期して同府に大演會を開催する準備中なるを以て觀察使も亦人を京城に馳せて是が處置法に關する訓令を仰ぎつゝある由なれば竟に今明の間に一場の爭鬪を醸すやも計られずと云ふ

●釜山に病院建設されん

同仁會にては今回京釜鐵道線路の起點終點即ち京城釜山其他同線路の重要なる地點二箇所に病院建設の計畫あり大隈會長は目下第一銀行頭取澁澤男爵及京釜鐵道會社總裁古市公威、同理事竹内綱等の諸氏と夫々協議中なるが多分建設さるべしといふ

●朝鮮米の日本輸出は絶望

朝鮮に於ける米の輸出は日本の生産同樣輸出品の重要物産なるが昨今は韓國駐箚軍を始め多數の日本人入込み居る爲め地場の需用に應じ之に當港及び群山等より少許の輸出あるに止まり仁川の如きは却て當港より供給を仰ぐ樣にて價格も隨て騰貴したる結果は到底貳圓以上の諸掛を要する日本への輸出は引合ふ可しもあらず故に米貿易商は孰れも收穫の賣買のみに從事し居れる有樣なるに將來に於ては尙更本邦人の移住する者一層多きを加ふ可れば到底此上昂騰するも低落するてと無かるべき等あらざれば日本輸出は當分不引合となるべしと云ふ

●徵兵受檢者の成績（前號のつゞき）

甲種

（輜　卒）　前川貞吉　友岡次郎
蜂屋文次郎　中谷友藏　今村郎三
細富岡米吉　和田正男　桝井岡市
鈴木幸太郎
（歩　兵）　阿比留淵助　酒井藤三郎
小野政一　阿添乙郎　深堀巳之助
木村吾八　藤川興市　松本由大郎
（機關水兵）　鉾永敏彦　宮本喜助
小林一龍貫　室谷久藏
古賀一衛
（騎　兵）　川畑依五郎　矢野政治
畑中達平
（野戰砲兵）　森田吉次郎　草木喜久治
地　秀宗　秋良正臣　松岡常一
中井　若

乙種

（輕重輜卒）　立澤　達　坂本俊資
安木近二　田中安永郎　尾崎榮吉
秋原末吉　天野眞作　立川六郎
太田喜平治　小金丸貞一　山本正一郎
辻　勇敏　磯田正之助　渡邊國平
中江　今助　山田友太郎
（砲　兵）　寺田常次郎　東保虎之助
（騎　兵）　林　節一　森家重助
平井直治
（歩　兵）　山本金五郎　工藤勝三郎
弓削　莊信
（看護手）　橋本勇三郎　弘野作二郎
（鐵工兵）　古谷昭郎　長永
中田　正　（乙）江崎恒太
（乙の部）　島崎伴二郎　永野勝靖
瀬井與次郎
（丙丁不合格）中村清一　淺野光太郎
野尻遠也　八幡亀吉　松崎正治
士屋善太　德永米藏　石原盛
兒玉科秋　棚橋慈二郎　松本勇太郎
江田樣象　芦苅清次　横谷直藏
村井億欽　有田伊勢松　馬場俊治
内田信滅　松崎吉太郎　花田三次郎
別　直治　三宅群二

●北韓方面近情

北韓方面よりの情報によれば城津方面に出沒せし敵は遠く退却し現時は全方面一帶に敵影を認めざるに至れり萬日我斥候隊深く敵地に入りて城津を距る遠からざる地點に進みたりしが當時敵は依然大部隊と衝突し盛なる遭遇戰を開始して若干戰鬪に陥りたる敵を撃退し我れまた損害を蒙りり一時退却するの已むを得ざりしが此の遭遇戰に依つて敵情を審かにするを得、軍の作戰上大に利する處ありたる結果昨今大に人意を强ふする事となれり爾かく全方面の戰局發展の期に向ひ尙ほ未だ元山以北の航通を開始するに至らず隨つて北韓方面より出づべき荷物の元山市場に上るもの甚だ少しといふ

●大邱雜觀

▲旅館の增加　全地の旅館は太小二十余戸に達し今驛止まりの列車到着する每に數十名の宿引は列車昇降口に押掛け其の混雜言はん方なし殊に旅舍の多くは數名の淫賣婦を置かざるなく旅客の迷惑は一方ならず旅館の最も宏なる者は大北館にして而も眞面目に營業し居れり其他達城館、東京館、唯家等は旅舍たるの面目を備へ居れり▲大邱守備隊　達西門外にあり後備步兵二十四聯隊の一箇中隊駐屯せり憲兵屯所及び警察署も其の附近にあり▲邦人の戸口　二百余戸にて人口は二千に垂んとする鐵道會社に關係の人々を除けば他は旅舍料理店最も多く雜貨商之に次ぐ資産家少し▲西門外の市場　繁盛頗る廣にて市日に四方より集まる韓人の白山を築き非常の雜踏を極め賣買も頗る多額に上る由▲瓦葺の建物　全地に於ける日韓人の建築物にして純粹の瓦葺なるは至て少なく鐵道會社の社宅と府の四門及び府内の韓國官衙のみ▲藩士の都府　大邱は韓國三府の一にして綿らずに石壁を以て繞れた古昔の盛を忍ばしむるものあるは矮少なる茅屋の鱗次するのみにして例の數十の都たるのみ

内地情信

▲大隈伯の經濟演說　大隈伯は客月廿八日夜銀行俱樂部晩餐會の席上に於て大要左の如き演説を試みられたり時節柄大に参考に資すべし

我國民が多大の戰費に堪へ得るや否やは當局者も政治家も危ぶむ所の問題なり從來諸國人は一層其の疑を深くせり蓋し我國の富は百二十億乃至百六十億にして年々の生産額は十三億乃至拾八億と見れば大差なかるべし而して一人の生活費を平均三十圓と假定すれば總計十五億生產の多額むることは常に幾分の蓄積を爲して國富の增進を得るべく其外副業の遺産及び開戰の爲に增したる勞働等に依り生產額の增加せる者を合算すれば無慮四億以上なるべし國債總募力の盛にして未だ經濟界に惡影響を及ぼさゞるは富力の程度愛國心の厚薄のみに依るべからず露佛戰爭當時に於ける獨逸賠償の不結果なりしを見て知るべし我國が永く軍費の負担に堪るは商工業の幼稚にして富の三分の一は天然產にあるを以て戰爭の爲めに影響を受くる少なきに依るべし若し此の戰爭にして假りに廿五年の後商工業の大に發達したる時期に起らしめば金融界は忽ち破壞せられて露佛戰爭當時の獨逸南阿戰爭の英國の如き影響を受くるや論なけん伯と戰後に軍用手票の低落之に對する戰地物價の騰貴等に就て整理救濟の必要を述べられたり

▲彈丸防御の胸甲　去る二日午前十一時より東京　下大森射的場に於て松井銃砲店に發賣の彈丸防留具の試驗射撃を行はれたるが参列者は新聞記者の外に暹羅公使大隈伯伊藤院子等十數名にして第一回は一百米突第二回は五十米突第三回には五米突にて各次數發の命中彈ありたるも只一發が前の彈痕に再び命中したる爲め裏面に隆起狀を爲したる外總て貫徹せず此日試射したるは胸甲（鋼鐵道具の御胴型）及び防楯雛形にて其成蹟は良好なりき因に胸甲の厚さは一貫三百目弱にして二枚の鐵板を重ね其間隔には竹を以て防留具を裝置し更に糸瓜の類を充塡したるものなり

▲内務省と戰時事業　内務省にては今回の地方官會議を機とし『戰事紀念事業の概表』と題する小冊子を配付し樹は國民を舉げて戰時紀念として永遠に公益事業を興し其國力充實の業に勵みつゝある狀を外國に知らしむる爲め之を諸外國語に飜譯し公使館領事館等を經て夫々發信せるが又地方官に配付せる『戰時救護事業の狀況』と題せる小冊子を外國語に飜譯し同樣通信したりと

▲郵便貯金の激增　昨卅七年中に於て約七百萬圓を激增し三千八百萬圓羅に達し全國郵便貯金は本年に入りて更に增加の趨勢を示しつゝあり即ち去る一月末日に於ける現在額を見るに金額二千八百九十五萬九千六百八十五圓九十三錢六厘此人員四百六十四萬七千四百三十二人二月廿四日に於ては金額三千九百七十八萬六千四百八十七圓十七錢此人員四百七十八萬五千三百五十四人にして最近調査に係る去月廿八現在預入金額は三千九百八十六萬二千百十一圓五十九錢四厘にして之れを前年最高額十二月末日現在額に比すれば實に百七十四萬四千五百八十五圓二十二錢七厘の增加なりと

（明治三十八年三月七日）　朝鮮日報　（日刊）　（水曜日）　第參十九號　（三）

朝鮮日報

小説 商家のむすめ（下）

喃々史

公段へ向つて苦情をならべるとか親類筋になつて怒り出し
「汝はそんな白痴な事を云ふか今時の娘は姉の樣な内氣でも困る妹の如く學問に熱心でそして人に對して臆せず思ふ事を述べる樣でなくては將來良妻として交際場裡に立ち又賢母として子女を教育するなどは出來ぬ昔は妻は内にばかり引込んで食事の世話や裁縫洗濯さへすれば其で濟んで居たが今時は左樣な事では通らぬ現に今度の戰爭が起つてから東京に於ても華族の夫人方が愛國婦人會とか篤志看護婦會とか其他軍人の送迎にまで奔走せらるるのを見ても判明るではないかそんな事が姉の樣な氣質で出來るものか考へて見よ」
と反對に一本きめ付けた此親物となつて負けぬ氣で女大學の講釋エヘソンナ本は當世に合ぬ所でぶよけと父親はふいと立つと云ふ風に夫婦間には子の育て方に付て爭論が絶へぬ何か不自由なき大商家此位の事がなくては果報がするであらう
姉は母親妹は父親と隔て隔間に隔あるも可笑しく母親姉娘と芝居に赴けば父親は妹娘を連れて音樂會或は教育展覧會などの開會された時には必ず行く何れも歸りての評判が親として聞きものである姉の方は今日の芝居で一番面白かりしは白木屋の段でお駒となりた羽三郎の美しさと宗者の才三の意氣であつたのが一倍鮮童を引立したと申す姉を推しての聞し妹の方は今日の展覽會で一番目を惹きしは自分の當學の教師の出品の旅順背面攻擊の圖であつた實に惨憺たる光景に遇り轉た暗涙にむせんだなつと語る兩女の嗜好の異なる點はおれで察せらるのみならず其居間を見ても性行の反比例なるを表彰されてある序に其模樣を語らんか
姉の室には一間の大床があり其に豐國の筆に成る絶世の美人が掛られ香爐の花瓶は紫陽金銅の花籃に挿へられ池の坊流の立花行儀よく其小脇に美人形の可愛らしきを置き錦紋縮子の袋に入れたる三味線の紅箱が並び書棚の文机には紅葉山人柳浪子などの小説を數多く積置き文藝倶樂部は缺號なく綴へてある近頃天外子作になる……人情の機微を穿つたれてあるとか……寢床……がないが二尺四方位の油畫が壁にかけられ其下に菓細工の書棚があり、それには家政育兒に關する書籍が金文字の背を見せて併べてある紫檀の書机には女學雜誌第一號より缺さず重ねられ裝飾の品きは無論洋風のものである
さて此姉妹の行末は知らず姉は店の小僧より成上りし番頭を夫婿に妹はせた女子大學に入らねばならぬとて近々其入學試驗に應ずる爲東京へ出て行くといふ事である、それに付戰役の事父親母親に向ひ
「妹のあとは何にもいふて貰ふまい彼が大學卒業した曉には白耳義歸りの商業學士のチャキ〳〵を婿にとり分家をさせてやる」
と言へば母親は不平らしく
「同じ腹を痛めた子なれど彼の妹は産むときも難儀をしたのみか妾といふものをテンナ呑んでゐますから憎らしい」（完）
喃々史曰此姉妹が妻となりてからの話は後日を期し『商家の妻』と題し掲載いたすべし

●大商店訪問記（三）

宇和肥料商會支店（南濱町）

支店長は西野道七郎氏なり……商界の老練家たるは氏が……を快諾一番……宇和島なる本店……肥料も中々の好況でした本年も先づ前途有望と存じます……

投書籠

▲僕の長髪　やつお

君何故髮を延べるか五月蠅かもうと友が言ふ……僕は何とも無い延べて見たいから延べるのだ此見悟い風を見て人が狂と笑ふと……

▲人の裏面　花水

世には眠れる人あり……

百字文

相場

米……

釜山商況

……

魚市場（三月六日）

……

瀛船釜山出帆廣告

日本郵船會社

仁川鎭南浦芝罘大沽牛莊行　日東丸　三月十一日

門司神戸大阪行　ヲハヨー號　三月七日

荷客取扱所　大池回漕店

大阪商船會社　汽船釜山出帆廣告

木浦仁川鎭南浦行　群山丸　三月九日

琴平丸　三月八日

仁川鎭南浦行　ハイキンク　三月十四日　二月九日

木浦群山行　肱川丸　三月十一日

下關神戸行　ハイキンク丸　参月九日　二月四日

木浦丸　三月十二日　二月七日

蒼龍丸　参月十五日　二月十日

肱川丸　参月十七日　二月十二日

琴平丸　参月十七日　二月十一日

安東丸　三月廿二日　二月十七日

馬關長崎博多下關神戸大阪行　手取川丸　三月七日　午後十時出帆

馬關下關神戸大阪行　義州丸　三月十一日　二月六日

元山行　蒼龍丸　三月十日　二月五日

沿岸線　瑞鷹丸　仁川群山間每週三回往復

大阪商船株式會社

瀛船釜山出帆廣告

元山行　防長丸　三月七日

浦門丸　三月十日

下關行　福岸丸　三月十二日　二月二日

荷客取扱店　三木回漕店　電話八三番

瀛船釜山出帆廣告

仁川行　松前丸　三月七日　二月二日

門司行　幸光丸　三月十六日　二月十一日

木浦群山仁川行　寧靜丸　二月　日

貫効丸　二月　日

釜山港荷客元扱　本町通郵便局前　山川回漕店　電話一七八番

釜山出帆廣告

八代濱株式會社深川汽船　定期連絡汽船　若津丸　三月七日　午後六時　嚴原唐津行（九州線連絡ス）

荷客取扱店　中上回漕店方　國中商店

釜山出帆廣告

八頭司船舶部

萬歳丸　三月　日

山陽丸　三月八日　馬山浦行

倶ニ午后二時出帆　荷物ハ切午前十時

馬山浦丸　二月　日　仁川行

八頭司船舶部

瀛船釜山出帆廣告

大阪尼崎

下關神戸大阪行　神代丸　三月八日

馬關大阪行　第二崇敬丸　三月十二日

大有丸　三月八日

瀛船出帆廣告　大阪絹川丸

錦龍丸　三月六日　下關行

大池回漕店

瀛船釜山出帆廣告

世昌洋行瀛船　門司神戸大阪行　永田丸　月　日

仁川鎭南浦行　ダクマル號　二月　日

門司神戸横濱行　スルベルグ號　二月　日

ビマリタク號

釜山運輸組瀛船　第四共同丸　三月十一日　下關大阪行

沖永回漕店（電話第百式合七番）

第四共同丸　二月十一日　下關大阪行

第五永田丸　月　日

釜山運輸組（電話百二十九番）

世昌洋行汽船出帆廣告

門司神戸大阪行　ダクマル　三月　日　午後五時出帆

仁川濟物浦行　スルヘルク　三月　日　午後五時出帆

世昌洋行汽船取扱店　サ齋藤回漕部

瀛船釜山出帆廣告

木浦仁川鎭南浦行　京畿丸　三月七日　二月二日

慶尚號　三月十八日　二月十三日

元山行　慶寶丸　月　日

正成丸

泰盛號　三月七日　二月二日　仁川群山間航海中

堀商會瀛船釜山代理店　本町海岸郵便局前　山川回漕店

西洋御料理 附 玉突場

Restaurant

釜山幸町一丁目　小倉庵　電話一五一

支那料理　東京そば　東庵

滋養牛肉ソップ販賣　一合代貳錢　南濱二十八番海岸通　平田秀吉

勉強御下宿　南濱二十八番地海岸通　伊豫屋

精白米廉價販賣　石炭米北　其他　南濱町海岸通四ッ角　西原商店

唐津石炭　辨天町一丁目　國安商店　電話一七一

株式會社第一銀行支店（電話一番）

一資本金壹千萬圓

一積立金百七十万圓

明治六年設立

本店　東京

支店出張所　取扱　澤榮一

京城　仁川　木浦　鎭南浦　安東縣　群山　大阪　名古屋

元山　平壤　大邱　新義州　伏見

神戸　京都　横濱　長崎　岩國　佐賀　中

四日市　兵庫　八尾　久留米

長崎　門司　下關　熊本　博多　佐賀　中

門司　横濱　柳井　津　與

全　大阪　上野　廣島　國　山

讃岐　田　三原

大阪　美濃

高岡　多治見

牛莊　手　上海　香港

諸預り金爲替貸金其他銀行一般業務多小ニ不拘便利御取扱可申候

純良牛乳　稻尾牛乳店

富平町二拾四番地

配達迅速便利

株式會社第五十八銀行釜山支店（電話五十八番）

東京　大阪　京都　横濱　名古屋　伏見　兵庫　神戸　岸和田　尾ノ道　宇和島　下ノ関　及び其他

爲替取組先

一般の銀行業務は總て御便利に取扱可申候

材木建具廉價販賣　富平町精米所側　平松商店

磨擦米廉價販賣　富平町　岡本商店（電話三拾一番）

板材木廉價販賣　其他石灰竹瓦　南濱海岸　末島商店

靑物乾物　砂糖麥粉　西町一丁目　遠藤商店　電話架設中

●巻煙草　●刻煙草　●銘茶　宇治錦城園製　●各種石鹸　●齒磨類　●麻裏草履

石鹸小賣共大勉強　南濱小倉庵前　紀　宇田商店

大坂毎日新聞　一ヶ月代四拾八錢

萬朝報　一ヶ月特別大割引三拾錢

幸町一丁目長手通　山口新聞舗

獸醫　富平町拾七番地　中尾祐作　電話四拾四番

專賣特許　山西足袋發賣元

●シャツ類　●財布袋物

●保險麻裏　●茶烟草類

●各種行李　●化粧品類

其他雑貨小間物糸類大勉強販賣

釜山西町三町目　御問屋　百　明治屋

專賣局指定煙草輸入元　きりん印刻煙草總發賣元

歐米雜貨類　巻煙草　各種刻莨

洋酒　西洋食料品類　●駄菓子　●宇治銘茶　●化粧品　●卸小賣共

右御用命の節は可成々廉價に販賣候

釜山幸町　合　齋藤支店　電話一四四

玉突場御披露

弊店儀從來西洋料理營業罷在候處各位ノ御高眄ニ仍リ日ニ增シ繁盛致シ候ニ付今般大方諸彦ノ御勸告ニ應ジ更ニ玉突場新築落成致シ來ル三月十日ヨリ開業仕候間倍々御來遊之程偏ニ奉希上候

釜山幸町一丁目二拾二番地　小倉庵主人敬白　電話（一五一）

血を増し肉を肥し胃を健にする

蜂印葡萄酒

强壯的飲料は本品に如くものなし

韓國一手輸入元　合　齋藤商店（電話番號一四四）

釜山幸町一丁目

活版印刷　廉價迅速　朝鮮諺文活字あり　釜山西町三丁目郵便局裏　立志社

京都　御入用の節

呉服太物類　野菜類は拙商舗に應すべく候

其他野菜類

葱

京都産の葱は白根斗りは致し京都葱の特色とも云ふべき程であるにより當地にて好適品と御座候間目下京城大田大邱地方の御需に應じ每日發送致居候○風味は馬關葱の比に無之高評を博し居候間一度御試用被下度候

幸町三丁目郵便局角　松崎呉服店

拙者事過日來京城地方ニ出張罷在候處本日歸釜從前之如ク業務ニ從事候也

三月　日

西町二丁目　女醫　淺海琴

謹告

拙者義て袂、建具、屏風、諸額面、掛軸、金銀陶器、表装營業致居候處各位の御愛顧により日に増し繁榮に赴き候段奉感謝候然るに目下の時局に鑑みる所有之自今毎月收入金之内諸費を控除し殘額は挙て之を陸海軍恤兵部に獻納し以て聊か報國義務を盡さんと存候に付ては各位益々御引立ての程希くは多少に不拘御用命被仰付度候也

西町二丁目表具師　福村松旭堂

韓錢證票交換

三月卅一日

韓錢證票交換の儀は兼ての布告の如く來る三月卅一日限りにて交換期限切れと相成候に付右期日内西町二丁目拾番地福田酒場に於て交換を行ひ候間御所有の御仁は必ず右期日迄に御交換有之度此段廣告候也

京城釜山仁川鎭南浦開城各地

明治三十八年　福田增兵衛

御旅館兼御料理

大阪府下日本郵船會社汽船乘客取扱所　停車場前大廳町外　達城館

會席御料理仕出し

西町三丁目（電一三一）　春日

最上醬油元祖

宮内省御用達

第六號御指令

名譽金牌受領

注意

韓國特約販賣元

大樽入、一斗入、四合瓶詰アリ近來奸商トモ空樽ニ偽物ヲ詰込販賣スルモノアリ御買求之節封印ニ御注目ヲ乞フ

釜山西町三丁目　廣田酒店

紡績　縫糸

綿

絹糸

葡萄酒

純良アルコール

大阪　沖永商店　釜山港入江町（電話二八〇番）

今般韓國釜山港ニ代理店ヲ設置シ弊社商行ノ爲メ秋野彌一氏ニ囑托致申候間眷顧仰申度右披露仕候

明治三十八年三月

東京日本橋區通二丁目六十七番地　日宗火災保険株式會社

今般弊店ニ於テ日宗火災保険株式會社代理店ヲ引受ケ勉強簡便懇切ヲ主旨トシ一般火災保險契約事務ヲ御取扱致候間御用命被仰付度御一報次第參上可仕候也

三月　日

釜山辨天町二丁目　秋野彌一　電話三十番

處方調劑所

處方調製ノ依賴ニ應ズ

釜山本町　三弓前盛藥館

獨逸直輸入

純良

アルコール

釜山南濱筋

特約一手販賣　大黒藥店

西町三丁目

全上　廣田商店

東京印　勢印　草印

醬油

右入荷候間御用仰付ラレ度願奉候

辨天町　上杉乾物店

●釜山天氣豫報